

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たしつつ、成城高校独自の強みを活かし、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する学校

- 学びを大切に、基礎基本の学力充実と夢実現の発展的学力の養成。
- 規範意識を身に着け、自己と他者を大切にできる人間育成と安心で安全な学校。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

## 2 中期的目標

## 1 成城高校がめざす ES としての成果をあげるための取組み

## (1) ES の基本である学び直し学習を着実に、発展的学力や知識習得ための取組み

ア 研究プロジェクトを立ち上げ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、大学の研究者との連携を図り研修を重ねつつ、公開授業や研究授業を積極的に行い、学習効果をあげるための工夫を行う。

\* 「わかる授業」「楽しい授業」を実現し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 28 年度は 59.1%）を引き上げ、29 年度は 70%、31 年に 80%にする。

\* 1 年生の年度末学力調査で、平均点 75 点以上とする。（平成 28 年度は 71.8 点）

イ ICT を活用した学びの充実

\* 全普通教室にホワイトボードを設置したことで「電子黒板の一層の有効活用」を研究しさらに進める。また「タブレット端末の活用」を強力に進めることで、居眠り防止等授業への集中度を高める。

\* 座学での ICT 活用実施者割合を平成 29 年度は 50%とし平成 31 年度は 70%を達成する。

## 2 高い規範意識で自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校づくり

## (1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応

ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC 及び担任団を中心としたサポートチームの強化

イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

\* 中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善維持（平成 28 年度入学生は 90%が改善）

## (2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化

ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化

\* 平成 31 年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」を 90%にする。（平成 28 年度は 84%）。

\* 平成 31 年度生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答を 85%にする。（平成 28 年度は 62%）

\* 総遅刻回数・欠席日数とも前年比各 10%減を達成する。

\* 規律違反指導数を平成 31 年度まで毎年 10%減少させる（平成 28 年度は 27 年度比較で増減なし）

\* 中退率維持（平成 28 年度は 0.5%）

イ 部活動の活性化

\* 平成 31 年度、部活動加入率全体 70%、1 年生 80%にする。（平成 28 年度全体 62%）

ウ 学校環境の整備

## 3 進路保障

## (1) 基礎学力を身に着け、発展的学力を充実させる。

ア 公開授業・研究協議の維持

\* 授業公開 30 講座、校内授業見学 100 講座を目標とし、3 年後の達成をめざす。

\* 教育産業が実施する学力診断テスト用い生徒の学力を定点観測し学力向上をはかる。評価指標である D 3 の割合を平成 29 年度は 10%減をめざし平成 31 年度は半減を目標とする。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実

\* 平成 31 年度生徒対象学校教育自己診断で「授業が充実している」回答 80%とする。（平成 28 年度は 59%）

## (2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み

ア 進路指導部主導型の進路指導体制を構築し、卒業時進路未決定者 0（ゼロ）実現

\* 進路未決定卒業生率を平成 29 年度以降減少させゼロをめざす。（平成 28 年度は 0.5%）

イ 社会で役立つ資格等を取得するための取組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。

\* 平成 31 年度、実用英語検定 2 級 2 名、準 2 級 20 名、3 級 50 名、合計 72 名以上合格をめざす。

（平成 28 年度は 2 級 1 名、準 2 級 8 名、3 級 42 名、合計 51 名）

\* 平成 31 年度の資格取得者・検定試験合格者を 530 名にする。（平成 28 年度はのべ 514 名）

## 4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり

## (1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保

ア 「チーム成城」での組織的な情報発信

\* 中学校訪問 150 校実施を組織的に取組み強化し、それを維持する。（平成 28 年 152 校）

\* 中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員等を 6 回開催し、計 800 名の参加を集める。

（平成 28 年度は生徒・保護者向け 7 回計約 877 名、中学校教員向け等 2 回合計 56 名参加）

\* 平成 29 年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。平成 31 年度までに 95%以上を達成する。

イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

\* 文化祭・体育祭に合わせて 1000 名以上の来場者を維持する。（平成 28 年度は 1030 名）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>昨年度と回答を比較すると全体的にパーセンテージは下降している その原因としては、回答欄に「どちらでもない」を設けた結果、あいまいな肯定的評価が、削除されたと考えられる。したがって否定的な評価以外を肯定的と判断すれば非常に高い数値となることが多い。 また、保護者からの回収率が向上したことにより学校に興味を持っていただけたことも大きい。今回の意見を、より詳細に校内で分析し、情報共有することで今後の本校の教育活動をよりよいものとするための資料とできたことが自己診断の実りである。</p> <p>パーセンテージは昨年度より肯定的意見は減少したが、生徒と保護者の数値はほぼリンクしていることから家庭での話しをする時間もたれていると推測される。学校での出来事が、家庭での会話の材料になっていることは、生徒の積極的な学校生活の姿勢の表れであり、本校の教育活動の成果ととらえている。</p> <p>1年生だけを比較するとほぼ同様の肯定的意見の割合が回答されており、新入生は本校での生活に対し一定の満足を示されているようにうかがえる。 上級生について数字としては、明確なプラス評価を得られなかったことは非常に残念であるが、今後も更なる向上をめざし努力を続けたい。また、学年ごとの意見を分析し問題点について検討したい。</p>	<p>平成29 年度 大阪府立成城高等学校 第1回学校協議会議事録 1 日 時 平成29年6月8日(木) 10時00分～11時40分 2 場 所 校長室 3 内 容 (1) 学校長挨拶 (2) 協議会委員及び事務局紹介 (3) 会長の選出及び職務代理者の指名 (4) 保護者から申し出られた意見について ・今回は意見書の提出なき旨、事務局より報告。 (5) 本校の現状報告と取組 ア 平成28 年度学校経営計画 評価について ・昨年度第三回にて報告済み。 イ 平成29 年度学校経営計画について ・めざす学校像については、昨年度より変更なし。 ・ICT活用の割合を上げるため、創立記念日に東百舌鳥高校での研修を実施。 ・現在、総遅刻数40%減、欠席数10%増、規律違反指導数については、50%減。特に、1年生は昨年度と比べ大きく減少。 ・「本校への入学が第一志望であるかどうか」については、学校教育自己診断に盛り込む。 ・6月17日に第1回公開授業を実施。PTA主催でふれあいカフェも開催。本校保護者も多数来校。中学校関係の来校者が増加している。改めて注目の高さを感じている。 ・体育祭は雨天順延となったが147名が来場。昨年より若干減少が見られた。 (6) 協議 ア 教員への印象(挨拶について) ⇒職員会議等で、まず教員から笑顔で元気に挨拶をしてくださいと伝えている。 イ 規律指導について ・髪の毛の問題(染色を疑われる)について。 ⇒「地毛登録」という形を実施。正しい運用を指示。 ・頭髪を含む、校内ルールを今一度見直し、検討してもいい時期がきているのではないかと指摘をいただいた。 ・その一方で、厳しい校則に守られている生徒もたくさんいる。非常に細かい規律が定まっていることで、守られているという安心感が生まれるとの意見もあった。 ウ 生徒の呼名について ⇒生徒に「いねい」に対応するよう改めて指示。呼び捨てで生徒を呼ぶことのないように。 エ ICT 環境について ・80 台のタブレットの活用状況は？ ⇒昨年度研修を実施し、タブレットが使えない教員はない状態にした。 オ 入学時アンケートについて ・「成城高校が第一志望」なのかどうかや「入学してよかった」ということをアンケートで問う場合、否定的回答に対して具体的理由の記述を求め、その声に耳を傾けるべき。また、入学後の生活を経験した2、3年生にも問い、どう感じているのかをはかるべき。 カ 清掃状況等 ・協議会前、2階の授業を見学させていただいた。埃が多くたまっているところもあり、清掃の徹底が必要とのご意見をいただいた。 キ 久しぶりに成城高校を見て ・成城高校は、工業高校→多部制単位制→総合学科→エンパワメントスクールと、何度も体系が変わった。この数年は、厳しい指導を徹底し、生徒も落ち着き、中学生にとって行きたい学校となってきた。この大きな変化は素晴らしいとのご意見をいただいた。 (7) 次回協議会の日程について 平成29 年度 大阪府立成城高等学校 第2回学校協議会議事録 1 日 時 平成29 年11 月24 日(金) 10 時30 分～11 時45 分 2 場 所 校長室 3 内 容 (1) 学校長挨拶 ・本会は次年度より学校運営協議会となります。 (2) 保護者から申し入れられた意見について ・今回は意見書の提出なき旨、事務局より報告。 (3) 本校の現状報告と取組 ア 頭髪指導および生活指導における生徒への対応について イ 平成30 年度使用教科用図書の選定及び採択について</p>

	<p>ウ 平成29年度「学校教育計画」について</p> <p>エ 入学時の意識アンケート及び学校教育自己診断について</p> <p>(4) 協議</p> <p>ア 頭髪指導について プールの塩素や成長段階などで髪の色が変わるので慎重に指導してほしい。 ⇒不徹底な部分がある。これからも一層丁寧に説明・指導していく</p> <p>イ 生活指導全般について 指導に納得できていない場合について ⇒生徒への指導については、頭ごなしに注意せず、生徒になぜそうしたかを聞き、指導する理由を十分に説明していく。</p> <p>ウ 生徒への支援について 生活指導は厳しいが、教育相談が充実しており、配慮が必要な生徒の保護者から面倒見がよいとの評価。</p> <p>エ いじめについて いじめへの対応は本校の特徴であり、今後も取り組みたい。</p> <p>オ その他 本年の学校教育自己診断は70%以上の保護者から回収することができた。</p> <p>(5) 次回の協議会について 平成29年度 大阪府立成城高等学校 第3回学校協議会議事録</p> <p>1 日 時 平成30年3月9日(金) 11:30-12:30</p> <p>2 場 所 多目的会議室</p> <p>3 内 容</p> <p>(1) 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年より学校協議会は学校運営協議会となる</li> <li>・「地域参画」をめざす協議会となる</li> </ul> <p>(2) 保護者からの意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は意見書の提出なき旨、事務局より報告</li> </ul> <p>(3) 本校の現状報告と取組</p> <p>平成29年度の学校経営計画について報告</p> <p>ア 資格取得について</p> <p>イ 校内の校則見直しについて</p> <p>ウ 働き方改革</p> <p>(4) 協議</p> <p>ア 校則の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 職員間での検討及び生徒会役員等との面談を行った。保護者の意見を聞く機会も作って欲しいとの指摘をいただいた。 現状を踏まえて校則の見直しを検討している。ぜひ、校則変更の結果だけでなく真意も伝えて欲しい。</li> </ul> <p>イ 働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議をはじめとする会議の方法を変更。ペーパーレスを中心に会議運営の見直しと業務の計画的実施の徹底。</li> </ul> <p>ウ 学級委員について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級委員が少ない、実行委員が兼務している現状を改善したいとPTA会長から意見がでた。 ⇒ PTA活動をがんばる、がんばっていきたいが人がたりず活動が広がらないアンケートを中心に各クラスに声かけをもっと積極的にお願いしたい。 PTA活動に教員も積極的に関わっていただき、PA活動とならないようにがんばって欲しい。</li> </ul> <p>(5) 次回の協議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 5～6月</li> <li>・第2回 2学期はじめ</li> <li>・第3回 3学期入試前</li> <li>・3月中旬で調整</li> </ul>
--	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取組み	<p>(1) ES の基本である学び直し学習を着実にいき、発展的学力や知識習得ための取組み</p> <p>ア、授業力向上研修と初任者の教師力向上の実施。</p> <p>イ ICT を活用した学びの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭・首席が中心となり、授業力向上と初任者育成を主たる目的とした組織を立ち上げ授業改革研修の企画、立案、実施を計画的に研修を行う。</li> <li>・5系列が、独自で生徒の学習習慣を定着させるための取組みを工夫する。</li> <li>・初任者を中心とした授業公開を、企画・実施し、研究協議を充実させ授業力向上を図る。</li> <li>・初任者の教科指導員と協力し、初任者相互の授業観察を積極的に行う。</li> </ul> <p>イ・新しい取組みを積極的に取り入れ、生徒の学ぶ意欲を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる授業」「楽しい授業」を実現し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を29年度は70%に引き上げる。 (平成28年度は59.1%)</li> <li>・宿題の提出率90%以上をめざす。</li> <li>・1年生の年度末学力調査で、平均点75点以上とする。 (平成28年度は71.8点)</li> <li>・授業見学振り返り用紙提出数目標100枚とする。</li> <li>・ユニットミーティングを月一回実施する。</li> </ul> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断において「授業などでコンピューターやプロジェクターを活用している」の項目の満足度を85%にする。(平成28年度は77.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用実施者を平成29年度は80%とする。</li> </ul>	<p>1年次の肯定的回答率55%、否定的回答率39.6%。学習課題を抱えた生徒が多く入学してきている点を考えると、否定的回答が4割を下回ったことは、モジュール学習の成果。(△)</p> <p>英語 74.7点 国語 67.4点 数学 86.0点</p> <p>初任者の自主研修での振り返りシート24枚。全体では73枚 (△)</p> <p>成城みらいプロジェクトを二班にわけ、それぞれのグループでの研修となった。ミドルリーダー中心の組織にできなかった。(○)</p> <p>全体は64.4%であるが、1年次回答では94.1%の肯定的回答があり、学び直しや学習の動機付けに有効活用できている。(△)</p> <p>60%の使用率 (△)</p>

<p>2 高い規範意識で自分と他人を大切にし、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校づくり</p>	<p>(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応の充実 ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC 及び担任団を中心としたサポートチームの強化 イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導</p> <p>(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化 ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化</p> <p>イ 部活動の活性化</p> <p>ウ 学校環境の整備</p>	<p>(1) ア 組織的対応に欠かせない情報共有のため職員会議には近々の事案・事象の報告を行う。 イ・式辞及び生徒集会等において常に学校の姿勢を訴えていく。 ・いじめアンケートを必要に応じて随時行い情報収集に努める。</p> <p>(2) ア・教頭、首席が中心となり初任者対象を中心とした、教師力向上研修を継続実施。 ・初任者育成プロジェクトで研修を重ね、カウンセリング力を高める。 ・遅刻防止、欠席防止指導の改善。 ・アルバイトの制限維持。</p> <p>イ・生徒会が中心となった部活動活性化活動。</p> <p>ウ・「ゴミの落ちていない学校」を継続するため校長による巡回と教員への徹底指導継続。 ・生徒の自己有用感を持たせるため、教員自らが積極的に感謝の気持ちを表すことに努める。 ・3F 普通教室の壁の塗り替え実施。</p>	<p>(1) ア・いじめが起因する不登校ゼロをめざす。 イ・中学校以前に不登校・いじめられた経験をもつ入学生の登校改善維持。 (平成 28 年度入学生は 90% が改善) ・学校教育自己診断における「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」を平成 29 年度 75% とする。 (平成 28 年度は 69.5%)</p> <p>(2) ア・中退率の維持 (平成 28 年度は 0.5%) ・停学人数 10% 減 (平成 28 年度は前年度より増減なし) と総停学日数 10% 減を達成する。 ・総遅刻回数・欠席日数とも前年比各 10% 減を達成する。 (平成 28 年遅刻 2785 回、欠席 3950 日) ・届け出を義務付け、担任がその状況を把握し適切指導に役立てる。 ・「成城に入学してよかった」の項目を平成 29 年度は 70% にする。 (平成 28 年度 62%) ・平成 29 年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」を 90% にする。 (平成 28 年度 84%)</p> <p>イ・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。 (全員体験入部 2 日) 1 年生の部活動加入率 80% を実現する。</p> <p>ウ・学校教育自己診断の生徒項目に「校内美化に努めている」を追加し、肯定的回答 80% をめざす。</p>	<p>人間関係構築に難のある生徒が多く、些細な揉め事でも時間をかけて対応する必要が増してきた。1 年次では、肯定的回答率 50.3%、否定的回答率が 21.3% (昨年全体 32.1%)。否定的率が大きく減少。保護者の同問題の否定的回答率は 14.2%。(○)</p> <p>今年度「判断ができない」を追加したため、数値が下がったと思われる。44.5% (否定的回答 32.1%) 昨年度と同じ手法でとれば 58.1% の肯定的評価。(△)</p> <p>0.8% (◎)</p> <p>停学者数 70% 減、総停学日数 65% 減 (◎)</p> <p>総遅刻数 55% 減、総欠席日数 15% 減 (◎) 遅刻 1254 欠席 34821</p> <p>「学校に行くのが楽しい」に項目を変更。全体では肯定的回答率が 58.8%。1 年では 71.0% と指標を上回っていたため、学習指導を含む 2 年次以降のすすめ方が次年度以降の大きな課題である。(◎)</p> <p>「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」の否定的回答率 1 年 17.8%、2 年 15.1% と昨年通りである。しかし 3 年が 39.3% と高くなったが、これは回収率 (1 年 85%、2 年 86%、3 年 66%) が原因と考えられる。(○)</p> <p>4 月に体験入部及びクラブ紹介を 2 日間にわたり実施。1 年生部活動加入率 73.9% (○)</p> <p>今回追加した項目である。生徒の肯定的回答率は 49.9% と高いが、校内美化が保たれていないわけではない。保護者への問い「懇談等で来校した際、清掃が行き届き、生徒の生活環境が整った学校であると感じる。」では、肯定的回答率は 77.4% (否定的回答率 18.0%) からも、校内美化への取組みは継続できている。(○)</p>
--	---	---	---	---

<p>3 進路保障</p>	<p>(1) 基礎学力を身に 着け、発展的学力を 充実させる取組み。 ア公開授業・研究協 議を充実させた授業 改善。</p> <p>イ「主体的・対話的 で深い学び」の探 求・実践・充実</p> <p>(2) 希望進路の実現 をめざし、高いモチ ベーションを維持す るための取組み ア進路指導部主導型 の進路指導体制構築</p> <p>イ社会で役立つ資格 等を取得するための 取組みと、進学に向 けた英語、数学、国 語の進学講習の充 実。</p>	<p>(1) ア・研究授業、公開授業、授業見学を計画的・ 組織的に実施。</p> <p>・教育産業が実施する学力診断テストを継続 し、生徒の学力を定点観測し、生徒のモチベ ーションを上げるとともに、教員のスキルア ップの材料とする。</p> <p>イ・大学と連携を図り「主体的・対話的で深 い学び」の校内研修を実施する。</p> <p>(2) ア・計画的な進路指導と、保護者懇談等を通じ ての情報提供を積極的に行う。 ・大学・短大進学、就職・公務員・専門学校、 看護医療の4つの係に担当を明確化し、学年 団への指導と進路希望別に生徒への直接指導 を行う。</p> <p>イ・積極的に実用英語検定を受験させる。(1 年生は全員必須) またそのための学習の機会 を設ける。 ・生徒・保護者への周知・指導強化</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己 診断における授業満足度(平 成28年度は59.1%)を29年 度は70%に引き上げ、31年に 80%にする。</p> <p>・学力判定指標D3の割合を 10%下げる。 (平成28年度は38%)</p> <p>イ・職員研修参加率95%を実 現する</p> <p>・平成29年度生徒対象学校 教育自己診断で「授業が充実 している」肯定的回答80%と する。(平成28年度は59%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断におけ る「学校は将来の進路や職業 について、適切な指導を行っ ている。」について平成29年 度は90%を目標とする。 (平成28年度 85.1%) ・卒業時進路未決定者 0(ゼロ)実現</p> <p>イ・平成29年度は実用英語検 定準2級10名3級40名を実 現 ・資格取得者・検定試験合格 者を500名にする。(平成28 年度はのべ514名)</p>	<p>1年の肯定的回答率は55.0%(否定的回 答率39.6%)、全体は38.4%(否定的回 答率55.2%)。一番大きな要因は、1年 次の30分授業や理科社会の調べ学習か ら、2年次の2時間連続を基本とした系 列授業への移行がスムーズに行えてい ない。(△)</p> <p>1年生13%減、2年生15%減。(◎)</p> <p>6月・3月の授業力向上研修参加率 90%。 肯定的評価 77.5%</p> <p>38.4% 無回答を除くと41%(△)</p> <p>全体の肯定的回答率は76.3%であつた が、3年だけを見ると89.1%(1年 80.8%、2年71.1%)であり、適切な 指導が進められている結果である。(○)</p> <p>就職希望者は、全員決定。進学希望者に 未決定者あり。(○)</p> <p>英検2級1名、準2級2名、3級34名 4級72名(△)</p> <p>資格取得・検定合格者 652名</p>
-------------------	--	---	---	--

<p>4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり</p>	<p>(1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保</p> <p>ア 「チーム成城」での組織的な情報発信</p> <p>イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「チーム成城」での組織的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問を維持し、本校の実践内容を広く知ってもらう。</li> <li>・学校説明会や地域における説明会への管理職を中心に組織的に取り組み、経験の浅い教員にも経験を積ませる。</li> </ul> <p>イ ・地域の諸機関・事業所との交流・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア ・中学校訪問 150 校実施を組織的に取り組み、強化しそれを維持する。 (平成 28 年 152 校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員等を 6 回開催し、計 800 名の参加を集める。(平成 28 年度は生徒・保護者向け 7 回約 877 名)</li> <li>・平成 29 年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。80%をめざす</li> <li>イ ・首席を中心とした広報活動の充実。(HP に実施行事を 2 日以内にアップする。)</li> </ul> <p>・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。吹奏楽部が福祉施設へ慰問。 (平成 28 年度は吹奏楽部が参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭・体育祭に合わせて 1000 名以上の来場者を迎える。(平成 28 年度は 1030 名)</li> </ul>	<p>中学校訪問 延べ数 190 校 (◎)</p> <p>792 名 今年度設定した日程を次年度精査。中学校の行事だけでなく、私立高等学校の状況も調査が必要。次年度、回数は 5 回に減らし、体験型のものも実施する計画。(◎)</p> <p>第一志望率 82.4% (◎)</p> <p>年間 180 回の更新。80 枚の成城ニュース発行。(◎)</p> <p>吹奏楽部が福祉施設へ慰問。軽音楽部が餅つき参加) (○)</p> <p>今年度 体育祭 147 名 文化祭 914 名 合計 1061 名 (◎)</p>
---------------------------------------	---	--	--	--